

公開シンポジウム
「あごと顔の発生と進化」
の開催について

1. 主催：日本学術会議歯学委員会基礎系歯学分科会、一般社団法人歯科基礎医学会
2. 共催：なし
3. 後援：日本生命科学アカデミー
4. 日時：令和6年（2024年）11月2日（土）14：50～16：20
5. 場所：長崎大学医学部第1講義実習棟第1講義室
（長崎県長崎市坂本1丁目12-4）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：未定
8. 開催趣旨：

進化の過程で、消化管の入り口で、かつ咀嚼器官としての口、視覚、嗅覚、味覚、聴覚などの感覚器を擁する顔が発達してきた。顎顔面は、エネルギーの取り込みや感覚受容をする場を提供するとともに、社会生活を送る上で欠かせない個人のアイデンティティ決定に関与する。顎顔面の構造は、脊椎動物で出現し、それには神経堤細胞の出現が大きく関与している。その特徴の一つとして、体幹や四肢では、原腸陥入によって形成される三胚葉のうち中胚葉が軟骨や骨などの硬組織を形成するが、顎顔面では神経堤細胞が歯牙を含む硬組織を形成することが挙げられる。また、脊椎動物の進化過程においても、神経堤細胞はその役割を多様化させ、顎顔面の複雑な形づくりに関与してきた。本公開講座では、脊椎動物を中心に、顎顔面の進化、パターン形成、歯牙の形成への神経堤細胞の関与について、最新のトピックを市民と共有し、顎顔面の成り立ちと重要性について認識を深めることを目的とする。
9. 次第：
座長・オーガナイザー：

宿南 知佐（日本学術会議連携会員、広島大学大学院医系科学研究科生体分子機能学教授、歯科基礎医学会会員）

井関 祥子（日本学術会議連携会員、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科分子発生・口腔組織学教授、歯科基礎医学会会員）

14：50～14：55

1. オーバービュー

井関 祥子（日本学術会議連携会員、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科分子発生・口腔組織学教授、歯科基礎医学会会員）

14:55～15：20

2. 歯の進化と発生

大島 勇人（新潟大学大学院医歯学総合研究科教授、歯科基礎医学会会員）

15：20～16：15

3. 頭部形成の初期進化と発生

倉谷 滋（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科分子発生・口腔組織学非常勤講師、国立研究開発法人理化学研究所生命機能科学研究センター客員主管研究員）

16：15～16：20

4. クロージングリマークス

宿南 知佐（日本学術会議連携会員、広島大学大学院医系科学研究科生体分子機能学教授、歯科基礎医学会会員）

10. 関係部の承認の有無：

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）